

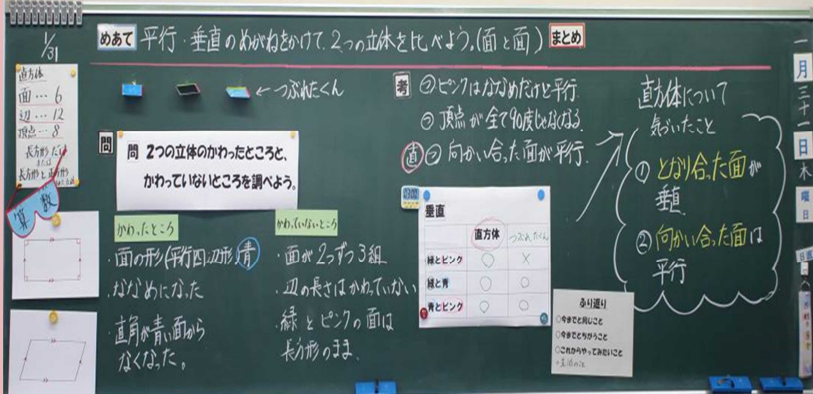
第4回

授業づくり講座 授業研究会

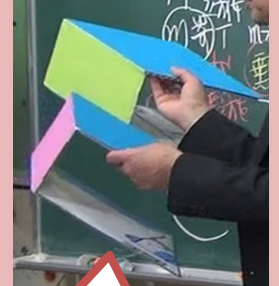
香美市立舟入小学校

今年度高知県最後の授業づくり講座は、4年の提案授業、そして齊藤一弥学力向上総括専門官による6年の実演授業を通して、既習の図形の見方・考え方を成長させる図形指導の在り方について、研究しました。舟入小学校以外から24名もの参加があり、事務局を含め、全部で60名の先生方と授業づくり講座を行うことができました。

第4学年 「面や辺の平行・垂直」授業者 川崎 一成 教諭



個々に実物模型で観察



着目させたい面の提示用模型

学力向上総括専門官より

- ①見方・考え方を鍛える・・・本時は、平行・垂直のより深い理解の場として扱う。既習の図形の構成要素の振り返りを通して、立体の観察の視点を示すことが必要である。
- ②問うべき問いは何か・・・提示用模型は緑とピンクも必要である。反例を示すことで「垂直が担保されてなくても平行といえるのか」を問う。平行四辺形の辺の関係と同じように面でもいえるのかを考えることができる子供を育てることが大切である。

指導板書



第6学年実演授業 齊藤一弥 学力向上総括専門官 テーマ「図形概念や性質を活かす」 授業名「長さを測る」



授業板書



◆参観者より

- 研究会をする前はよく分からなかったが、図形概念や性質を活かす授業とはどのように授業づくりをしていけばよいか、具体的にイメージすることができました。図形の定義・性質をおさえ、しかけをしながら考えさせていく大切さを感じました。教材を俯瞰的に見れるようになりたいです。勉強します！
- 4年生の公開授業と6年生の実演授業をつなげて考えることで、既習事項と未習事項をいかに子供に意識付け、既習を武器として未習に挑戦させることの大切さを改めて実感することができました。
- 教科の特性、既習内容の活用、系統性等、教師側の見方・考え方をしっかりもつことや子供の考えを広げるための手立てを考えることが大切だと改めて感じました。
- 6年生の実演授業では、小学校生活全ての学習内容をフル活用して思考することにより、図形概念や性質を活かして、わくわく授業を受けていたと思います。系統的指導を大切にして、子供が経験したことを別の単元につなげて捉える見方することにより、見方・考え方を鍛えていきたいと思っています。